



生駒市立鹿ノ台中学校 第7号

校長室だより

令和4年11月7日

いろいろなものの見方

1・2年生は先日校外学習に出かけ、1年生は奈良、2年生は京都で班ごとに古都の文化や歴史に触れる機会を得ました。班によっては、寺社仏閣を巡ったチームもあったと思います。さて、10月24日付の朝日新聞にコラムが掲載されていました。枠内はその内容を要約したものです。

伝統的な建築を何から見るか。京都大学大学院の学生は、奈良市の興福寺を木材から見ることで木材の調達や製材の秘話も聞き取り、研究を進める。

「建築物を作り出した背景に自然があった。材料を提供する自然に興味をもった。301年ぶりに復興した興福寺の中金堂も、創設当時の規模で再建するには、直径77センチ、長さ10メートルの建物を支える柱36本を始め、巨木が必要だった。現在の中金堂には、柱にアフリカケヤキが使われ、国内で木材が供給できなかった日本の今の森林の状況がわかる。建築当初と同規模の木材をわざわざ海外から調達されたことに、建築物への配慮と意思を感じ、再建を目指す姿勢は、301年前から受け継がれてきていると思う。復興建築のための木材を用意した天理市や桜井市の会社に行き、木材の調達や製材の逸話などを聞き取り、お互いの知恵を記録することで困難を乗り越える手がかりや後世へ共有する材料となることを知った。何に困って、何にこだわったかを記録することが価値になる。建築と自然をつないでいきたい。」

みなさんは伝統的な建築を見るとき、どんな視点で見えていますか？この学生は、「**見えているものの背景を知る**」という視点で見ているのですね。一つのものをとらえるにもいろいろな見方があります。そして、どの見方が正解ということはないのです。**お互いにそれぞれの見方を共有することで、自分自身のものの見方も幅が広がる**のではないのでしょうか。

2022 読書週間 「この一冊に、ありがとう」【10月27日～11月9日】

終戦まもない1947年（昭和22）年、まだ戦火の傷痕が至るところに残っているなかで「読書の力によって、平和な文化国家を作ろう」という決意のもと、出版社・取次会社・書店と公共図書館、そして新聞・放送のマスコミ機関も加わって、11月17日から、第1回『読書週間』が開催されました。そのときの反響はすばらしく、翌年の第2回からは期間も10月27日～11月9日（文化の日を中心にした2週間）と定められ、この運動は全国に広がっていききました。そして『読書週間』は、日本の国民的行事として定着し、日本は世界有数の「本を読む国民の国」になりました。

先日、『鹿中図書館だより』で「家読」（うちどく）について紹介をしました。家の人にも本校図書室のことをもっと知ってもらうために、皆さんがおすすめする本を、家の人にお家で手にとって読んでもらう機会を10月31日まで設けました。電子メディアの発達により、読書や書籍そのもののスタイルも大きく変わりつつありますが、家族で本について語る時間が少しでも持てることを願っています。



保護者の皆様へ

平素は本校教育にご支援・ご理解を賜り、
誠にありがとうございます。

●3年生の保護者の皆様におかれましては、先日の進路説明会に多数ご出席いただきました。また、1・2年生につきましては、11月17日（木）5・6時間目に分散型の授業参観を予定しております。ご多忙のこととは存じますが、万障お繰り合わせの上、ご出席いただきますようお願い申し上げます。

●本日、「制服を見直し、令和6年度から新しい制服になること」を生徒の皆さんにお知らせしました。性の多様性の観点も含め新しい制服を検討していきます。在校生は、新しい制服を着ることはありませんが、みんなで制服のよさと必要性を考えながら、「ジェンダー」についての学習を深めていきます。

●コロナの第8波やインフルエンザに備え、気を抜くことなく、換気と感染予防に努めていきます。ご家庭でも引き続きご協力いただきますようお願いいたします。